

鳴門教育大学地域連携センター

1. 概要

所在地：〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

TEL 088-687-6101, FAX 687-6100 WEB <http://www.naruto-u.ac.jp/center/ccc/>

2. 教員名簿

所長 葛上秀文 教授（高度学校教育実践専攻）
所員 藤原伸彦 教授（高度学校教育実践専攻）
阪根健二 特命教授（高度学校教育実践専攻）
泰山 裕 准教授（高度学校教育実践専攻）
谷村千絵 准教授（人間教育専攻）
竹口幸志 講師（人間教育専攻）
事務担当 教務部 学術情報推進課 地域連携係

3. 活動報告

(1) GIGA スクールの取組について

昨年度、鳴門教育大学地域連携センター公開シンポジウム『「GIGA スクール構想」に学校・教職員はどう取り組んでいけばいいのか』を開催した。今年度は、それに続き、第46回鳴門教育大学教育・文化フォーラムとして、『GIGA スクール構想元年－これからの教育について考える－』というテーマで、オンデマンド型で実施した。

本年度より、すべての小中学校において1人1台1アカウントの環境が整備された。中教審答申（令和3年1月）に示された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、行動的な学びの実現～』において、このICT環境は重要な役割を果たすことになる。各学校で取組が始まった状況の中で、何ができているのか、何が課題となっているのか、学校現場から報告するとともに、今後の方向性について専門的立場から提言した。今年度は、新型コロナウイルス感染の影響、また、働き方改革を推進するため、オンデマンド型で開催することとした。

鳴門市教育委員会の沖指導主事より、鳴門市におけるGIGAスクール構想の取組として、『タブレット端末を文房具として使う』という内容で報告いただくとともに、東みよし町昼間小学校の横川先生より『1人1台環境でできること』というテーマで実践報告をいただいた。また、本学泰山より『国内のGIGAスクール構想の取組から今後の方向性を考える』とのテーマで、専門的立場からの助言を行った。

アンケート回答者が330名を超え、この問題に対する関心の高さがうかがわれた。おおむね好意的な回答をいただき、現場のニーズに応じた取組となったと考えられる。フォーラムの実施形式として、予想以上に、今回実施したオンデマンド型を望まれる回答があり、次年度以降も、この形式で実施していくこととしたい。テーマに関しても、GIGAスクールの取組に対する関心が高いことから、次年度も、さらなる取組の発信を続けていく。

(2) 四国5大学連携による防災について

地域連携センターでは、「四国5大学連携防災・減災教育研究協議会」の一員として運営会議に参加している。また、本協議会に関連する「四国官学連携防災・減災協議会」の一員としても運営会議に参加している。なお、両協議会にかかわる新たな動きとして、四国5大学と四国4県に四国地方整備局を加えたメンバーを構成員とする「四国防災まちづくり推進研究会」が発足し、この第1回研究会にも参加した。これらの協議会や研究会を通して、各構成員による防災・減災の取り組みの状況と特徴、課題について情報共有を図ってきているところである。

11月には、四国官学連携防災・減災協議会が主催して「昭和南海地震から75年シンポジウム 南海トラフ巨大地震にどのように備えるか、現状と今後の課題」（令和3年11月18日（木））が開かれ、同シンポジウム午前の部では「現在の南海トラフ巨大地震対策の取り組み」と題して四国4県、5大学の取り組みがそれぞれ紹介された。鳴門教育大学については、①防災管理、②防災教育、③地域連携と防災、④フェーズフリーの4点から、これまでの本学の防災

の取り組みについて報告した。それに加えて、令和3年11月3日(水)に行なわれた鳴門教育大学創立40周年記念特別シンポジウム「明日のための“防災教育”を考える 教師として、社会人として“できること”“すべきこと”」について、学外からパネリストとして、株式会社「8kurasu」の防災教育推進担当である菊池のどか氏や、森本晋也氏（文部科学省総合教育政策局安全教育調査官）、吉田有礼氏（美馬市立脇町小学校長）をお迎えして実施したパネルディスカッションの内容を中心に、その概要を報告した。